生活と権利守るため全国税選択を

全国税

発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内（〒100-0013）
全国税労働組合
発行人 山本 浩二
電 話 (03) 3581−3678
ＦＡＸ (03) 3507−0886
振替口座 00140-2-68514

人勧期にむけた重点要求を決定

マイナス勧告は許さない

「1000円最賃実現」と一体で

民間大手はほぼ「定昇維持」の中で中小企業は昨年を若干下回る賃上げ回答に推移――一時金の妥結も全体として回復傾向にはあるものの、昨年末に大きく減少しており、今年もマイナス勧告が懸念されます。

国公労連・全国税は、「最低賃金時給1000円実現」に全力をあげるとともに、今夏人事院勧告期にむけて、初任給など賃金の底上げ、非常勤職員等の制度・処遇改善、心と身体の健康・安全対策を重点に、使用者である政府や代償機関である人事院の責任追及を強めていきます。

2010年春闘期に具体的な回答・言及がなかった課題もふくめ、人勧期にむけ実現を迫る6項目の重点要求は次のとおりです。

1 賃金の改善等

① 従来の比較方法の再検討も含む精確な官民給与水準の比較を行い、職員の生活と労働の実態にふさわしい水準に改善。

② 一時金は現行水準を維持・改善。一時金に占める勤勉手当の割合と全体の上下格差を縮小。

③ 初任給近辺の官民較差の解消及び前回引下げ分の回復、住居・通勤・単身赴任・寒冷地手当の重点的改善。

2 高齢期雇用制度

① 「65歳定年制」確立にむけ必要な意見の申出をはじめの機会提供。

② 可能な限り長い任期を設定するとともに、更新の基準・理由を明示する仕組みを確立。

③ 希望に基き、ステップ・キャリアアップのため行うこと。60歳前後の給与・処遇のあり方については、公平で納得性の高い仕組みとする。

④ 均等待遇確立にむけた法整備を図る。当面、「給与指針」や休暇等のあり方を見直し、常勤職員と同様の制度に改善。

3 非常勤職員の処遇

① 非常勤職員の「日々雇用」形態や契約更新の上限期間の廃止。

② 具体的検討にあたっては、職務給の原則、年齢差別禁止の観点、生涯賃金の世代間公平の観点、労働条件の不利益変更の回避、蓄積された知識・能力・経験にふさわしい給与・処遇を図る。

4 時短、休暇制度

① 超勤縮減をはじめ総実労働時間短縮にむけた実効ある取り組みを強力に推進。その障害となっている定員と業務量の関係について、公務員の勤務条件改善の観点から必要な意見を表明する。

② リフレッシュ休暇を早期に新設。病休制度について期間や有給の範囲等を改悪しない。

5 民主的公務員制度 労働基本権の確立

① 中立・公正な行政確立のため、公務員の身分保障を形骸化させる動きに対し、専門・中立的な人事行政機関の責務として毅然として対処する。

② 職員の市民的・政治的自由を保障する観点から、人事院規則14−7（政治的行為）を抜本的に再検討する。

6 健康・安全の確保

① 心の病発生を予防する施策の充実、「職場復帰と再発防止方針」の実効を上げるため改定を進める。

② パワハラ防止のための人事院規則及び指針作成のための検討をただちに開始する。

全国青年大集会に5200名が結集

分科会「税ミナール」で講師をした田山青年部長

「若者同士がつながりをつくり、みんなの力で職場も社会も変えよう」「私たちは一人ではないし、無力ではない」。

東京・明治公園で5月16日、『全国青年大集会2010』（実行委員会は全労連青年部、首都圏青年ユニオン、日本民主同盟などで構成）が開かれました。

全国から集まった5200名の青年たちは、人間らしい仕事とくらしを求めてたたかう互いの経験に共感の拍手と声援を送り、労働者派遣法の抜本改正、貧困から抜け出す社会保障の充実、最低賃金1000円以上」など「まともに生活できる仕事を！人間らしく働きたい！」と願いが会場にあふれました。

集会後、「青年をモノ扱いするな！」「生きる希望を取り戻そう」と、東京都内でアピールウォークを行いました。

“税務の職場”何でも110番
zenkokuzei@aol.com
全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも一一〇番」を常時設置しています（電話とＦＡＸは上記の番号までどうぞ）。
◇全国税ホームページ◇
http://www.kokko-net.org/zenkokuzei

全国税
一元化アンケート実施中！
ケータイからも参加出来ます！
まずはこちらをクリック
http://www.kokko-net.org/zenkokuzei/ques/
PC・携帯からアクセスして
賛否・意見を聞かせて下さい

貧困と格差の解消を

中央メーデーに3万2千人 基地撤去もアピール

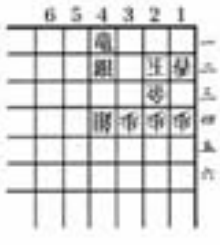
メーデーの5月1日、東京・代々木公園で「第81回中央メーデー」を開き、大黒作治代表委員（全労連議長）は鳩山政権に対し、「財界・大企業の『競争力』という呪縛から抜け出せず、多くの労働者・国民から失望感と怒りが噴出している」と指摘し、労働者派遣法の抜本改正と最低賃金の引き上げ、後期高齢者医療制度廃止、米軍普天間基地撤去の課題で「公約守れ」と訴えました。

中央メーデー会場で署名を訴えた全厚生日本年金機構本部支部の組合員は、「仕事は忙しいのに、職場の半分近くが派遣や委託などの短期間雇用の人たち」と語り、「年金記録問題の処理は簡単なものを優先的に済ませ、現在は難しいものしか残っていない」、「専門知識や経験の蓄積などができるよう人を育てる環境をつくってほしい」と話していました。

【写真右は中央メーデーでの全国税隊列、写真上は新潟県中央集会で横断幕を掲げ行進する全国税組合員】

詰将棋

〈出題〉九段 西村一義
中級クラス
〈ヒント〉
最後に竜の活用で……。
（10分で二段）



そちばん弾

平和で平等なユートピア「ひょっこりひょうたん島」にはじまり、言葉で笑いを紡いだ井上ひさしさんが亡くなった。常に社会の矛盾を鋭く見据え、弱い者の目線から言葉の力で世の中に問い続けてきた▼「憲法は国民が、国家権力を持つ人たちが勝手なことをしないように縛るもの」と教えてくれた。日米安保条約にふれ、「ベトナム戦争の死者のうち95％は一般市民だった。軍隊があれば国を守れるというのは、よほどの理想家か、うそつきですね」とも語った▼04年には作家の大江健三郎さんらと平和憲法を守るための「九条の会」を設立。日本は「憲法をもとに『共に生きる社会』を探求すべき」との氏の言葉を胸に刻み、未来につなげたい。

非核の世界 世論の力で

2010年国民平和大行進が出発

「核なくせ」訴え一緒に歩きましょう

「核兵器のない世界のために一緒に歩きましょう」と5月6日、2010年原水爆禁止国民平和大行進が東京都江東区の夢の島（東京ー広島コース）から出発しました（1958年に始まり、ことしが53回目となる平和大行進は全国11幹線コースと各地の網の目で繰り広げられる）。

色とりどりの幟や横断幕を手に、600人が「ＮＰＴ（核不拡散条約）再検討会議に核兵器廃絶の声を届けよう」「核兵器廃絶の国際交渉を開始せよ」と唱和しました。

また、北海道ー東京コースは8日、最北端の島・礼文島をスタートしました。

海からの風が音を立てて吹きつける中で行われた出発式で、東京まで歩く通し行進者は「平和な島、礼文島から平和大行進がスタートするのは意義深い。元気よく平和をアピールしていきます」と力をこめました。

新たな高齢期雇用制度

60歳前後の給与・処遇は公平で納得性の高い仕組みに

人事院は「平成25年度から定年年齢を段階的に65歳に引き上げることが適当である」、「60歳代前半の給与水準及び給与体系を設計するほか、60歳前の給与のあり方についても検討する」としています。また、「平成22年中を目途に具体的な立法措置のための意見の申出」を今夏の勧告で行うと表明しています。

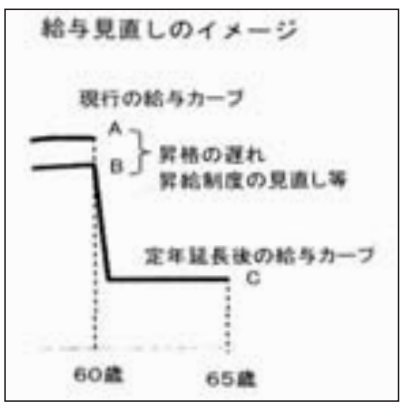
これに先立ち昨年7月、「公務員の高齢期の雇用に関する研究会」が行った最終報告・概要は左記のとおりです。その中で、定年延長後の給与カーブを大きく下げる「イメージ」も示しています。

定年延長による職務や給与水準等について、人事院は未だ検討内容を明らかにしていませんが、給与水準等は働き方との関係で決めるものであり、働き方を変えずに定年延長するのであれば、単純に給与カーブを引き下げる考えは容認できません。

▼定年年齢65歳引上げスケジュール案

～平成24年度	平成25年度	平成37年度～
60歳	61歳	65歳

※年金支給開始年齢の引上げに対応し、平成25年度から3年ごとに1歳ずつ、段階的に65歳まで定年を引上げる



高齢期の雇用について

■65歳までの定年延長の必要性

～略～　無収入の期間が生じないよう、平成25年度から定年年齢を段階的に65歳に引き上げる必要。

■定年延長を実現するための条件

①～略～、②60歳以降の給与抑制により総給与費の増加を抑制、③60歳までについても年功的な給与カーブの見直し。

各府省は、再就職のあっせんが禁止される下で、65歳までの雇用維持を実現可能とするための人事管理を具体化、公務内外で本格的に人材を活用できる仕組みに。

■定年延長後の職業人生イメージ

一般職員については　～略～　全体としては現在よりも昇進を遅らせ、65歳まで勤務。ライン職を中心とした人事管理や職員の意識を改め、複線型人事管理へ一層転換。60歳以降は短時間勤務や早期退職の選択など多様な選択肢を用意。

幹部職員については、～略～　本府省審議官等に役職定年制を導入。役職定年後は65歳までその能力を公務内外で適切に活用。早期退職を支援する退職給付制度。

第49回山のつどいへのお誘い

ことしは、飛騨山脈（北アルプス）立山連峰の主要峰・薬師岳――標高2926㍍に挑戦。重量感のあるどっしりした姿は、北アルプスの中で随一といえます（上級コースは標高2840㍍の黒部五郎岳も登ります）。

▼日程　8月5日（木）～7日（土）
集合は5日7時30分　折立休憩所前（薬師岳登山口）
宿泊は「太郎平小屋」（150名収容）
▼定員　40名程度　▼参加費（2泊5食）2万円
▼申込み　「近畿地連・第49回全国税山のつどい」係まで
電話　06－6941－2169　FAX　06－6941－8987

九条いかした外交・安全保障を

東京で「5・3憲法集会」4500人が参加

憲法記念日に日比谷公会堂で開かれた「5・3憲法集会」（憲法改悪阻止」で一致した、憲法を生かす会、平和を実現するキリスト者ネットなど8団体が主催）に約4500人が参加しました。

今年で10回目を迎えた集会では、法政大学教授の田中優子さんらが講演し、田中教授は「憲法は法律とは異なり、現実に合わせて変えるべきものではない」と指摘し、日本が取るべき外交・安全保障政策として「九条を守ること、在日米軍の撤去、東アジア共同体の構築」をあげました。

法律家・公務員試験の講義を行う「伊藤塾」塾長で弁護士の伊藤真さんは「どんな名目でも戦争をしてはいけない」と強調し、「若い世代へ憲法の尊さを伝える努力」を促しました。

集会では、普天間基地問題に関する発言も相次ぎ、社民党の福島瑞穂党首は、鳩山首相が5月末の解決を目指していることについて「沖縄の人たちは基地撤去という真の解決を望んでおり、大事なことは時期ではない」と批判。共産党の市田忠義書記局長も「日本のどこにも地元合意を得られる所はない。基地が生み出す苦しみを無際限にたらい回しせず、米国に引き受けさせるべき」と語りました。集会後、参加者は銀座一帯を「憲法改悪許すな」などと訴えながらパレードしました。

社員元気→会社繁栄

【北陸地連】

その会社は社員にホノルルマラソン出場を奨励し旅費を負担する制度をつくった（略）。

わが職場では、ちょうど資料調査課との合同調査中だったが、特調担当の調査官が重い鞄をさげ、眼は充血し疲れ切った顔で帰ってきた。

効率やノルマで職員を疲弊させ、元気を奪いとる職場になっている。（略）ホノルルまでの旅費とは言わないが、福利厚生も重要だ。

僕らの言いたい放題集より

【東京地連】

▼管理運営なんですが仕事に区切りがありません…。開封・入力・債権管理…、仕事が管運の中を横異動しています。

やってもやってもなかなか区切りがつかず疲労感ばかりたまっています。（普52　女性）

▼今年ほど、まとまりのなかった確申期はなかったんじゃないかなぁ。

「それは○○の仕事になっているから」「こちらも人がいないから」、よく聞いたなぁ。

部門間協力もいま一つで、疲れ方も例年と違う、なんか雰囲気が暗いんだよね。大変なのは一緒だから、せめてまとまり良くやりたいよ。（専15　男性）

トイレの中まで職務専念義務!?

【東京・神田分会】

「服務通信」に載った「こんなことしていませんか？　国家公務員違反です!―トイレの中で携帯電話を使って株取引」の記事を見た時の会話。

「今もこんな人いるのかね～」

「トイレの時間も仕事のこと考えていないと、職務専念義務違反ということ？」

「不祥事が怖いから大げさに言っているんだろうが、厳密に言うとそうかもしれない。でも、こんな細かいことは言わなくても……」

「トイレが数少ない安息の場だったのに……また一つ消滅か～」

管運ツイッター

【東海・小牧分会】

「仕事のアンケート」に記された職員の声

・相談センターからの電話がなぜ管理運営に回されるの？　それは一般相談なの？

・何をするにも事務提要を見ないと分からない。見ても知りたいことが書かれていない。

・忙しすぎて新人に仕事を理解させることができず申し訳ない。新人職員が可哀そう。

・アルバイトさんの負担が増えたため、仕事が回せない。

・一元化への移行が誤り。全ての事務ができるようになるなんて理想でしかない。

詰将棋

《解答》
▲3一銀不成△1三玉
▲2二銀打△同金▲同銀不成△同玉▲3二金△1三玉▲2三金△同玉▲2一竜△1三玉▲2二竜まで13手詰

《解説》
3手目▲2二銀打で金を取って7手目▲3二金で△1三玉と追い、次の▲2三金捨てが好手で、▲2一竜でピッタリ決まる。